全国まちの駅連絡協議会　事務局　（令和元年度第 1 号令和元年 10 月 31 日発行）

まちの駅ニュース

人と人の出会いと交流をサポートする
まちの情報発信基地

1. 第 22 回まちの駅全国大会 in やいづ

第 22 回まちの駅全国大会は、さかなの街静岡県焼津市で、令和元年 10 月 4 日～5 日の日程で開催しました。参加者は全国から 84 名と地元焼津から 77 名の総勢 161 名が集い、和やかで熱い意見交換が交わされました。

基調講演は、川口円子（かわぐちみつこ）先生から、「漁業のまち焼津の礎」と題してお話しいただきました。

第 1 分科会「着地型観光」では、焼津の歴史や文化、観光について伺った後、焼津メンバーと他地域メンバー（よそ者）とが共同して、焼津をモデルフィールドに具体的な着地型観光プランを考えました。

第 2 分科会「まちの駅へようこそ」では、全国各地のまちの駅の現状を持ち寄って、課題とアイデアを出し合う「アイデアソン」を試行しました。広島県廿日市のまちの駅が「おてつたび」で東京の学生を受け入れた成果報告もありました。

第 3 分科会「SNS の活用」では、フェイスブック以外の SNS 活用としてツイッターやインスタグラムの上手な使い方について、具体的な操作方法をマスターすることを目指しました。

第 4 分科会「まちの駅基礎講座」では、まちの駅をこれから始めようという方も交えて、まちの駅の歴史や各地のまちの駅の実情を伺った後、これからのまちの駅について自由に語り合いました。

分科会報告の後、総務省「観光人口創出・拡大事業」の採択を受けて「まちの駅ネットワークかぬま」が、「まちの駅ネットワーク焼津」「あらかわ区まちの駅ネットワーク」「会津まちの駅ネットワーク」と、まちの駅ネットワーク同士の姉妹締結に向けた準備を進めていることが報告されました。

2 日目のエクスカーションは、「さかなのまち満喫乗船体験」と「さかなのまち焼津の産業体験」の 2 コース。船に乗って海から富士山を眺めたり、サッポロビール工場、小泉八雲記念館、民俗資料館、漁港の超低温倉庫など、焼津のまちの駅や観光スポットを訪問・満喫しました。

2. 第 11 回まちの駅九州沖縄会議福岡大会 in 大川

9 月 25 日、「第 11 回まちの駅九州沖縄会議福岡大会 in 大川」が開催され、約 50 名が参加しました。大会テーマは「人と人をつなぐ架け橋 “まちの駅”」。現在、大川のまちの駅数は 32 駅です。当日は、「まちの駅おおかわ」の事務局が置かれている “大川テラッツァ（大川観光協会）” に集合して、12 時 40 分からはプレイベントとして、大川市と佐賀市をつなぐ筑後川昇開橋を見学しました。昭和 10 年に架設された東洋一の架道鉄橋で、今は遊歩道として観光スポットになっています。

13 時 30 分からは、バスで大川市内の現地視察。最初に 1800 年前に創建された神社「風浪宮」を参詣し、宮司さんよりこの地域の古くからの歴史を伺いました（写真右上）。次いで、まちの駅でもある仁田原建具製作所で「組子体験」、コースターを作りました（写真右下）。その後は、古い町並みが残る小保・榎津地区「藩境の街歩き」。江戸時代に小保町は旧柳川藩の宿場町、榎津町は旧久留米藩の港町として栄えた地区で、伝統的建造物が残されています。ガイド付きで藩境の石列などを見ながらの散策、途中で 300 年の歴史を誇る「酢のえき」の株式会社庄分酢と国指定重要文化財の旧吉原家住宅に立ち寄りました。

その後、まちの駅「えつの里」の三川屋に戻って式典・意見交換会。大川市の倉重良一市長の挨拶に始まり、福岡や鹿児島のまちの駅の活動報告、まちの駅本部事務局からの報告、今泉重敏氏の総括コメントで終了しました。

倉重市長は交流会にもお付き合いいただき、まちの駅メンバーと懇親を深める機会となりました。

3. 島原まちの駅 まちの寄り処「森岳」の紹介

長崎県内にある唯一のまちの駅が、島原市の「まちの寄り処 森岳」。島原駅から徒歩５分、西には島原城天守閣を望み、東は有明海に臨む位置にあり、天保十三年築の棟札がある古民家を再利用した「まちの駅」。島原で一番古いこの建物は、文化庁の登録有形文化財にも指定されています。

駅長の長濱七郎さんの本業は建築デザイナー。長年東京で仕事をしていましたが、30 年ほど前に故郷島原に戻って、本業以外にも様々なイベントを仕掛けています。10 月 11 日には２階を会場にして、邦楽ユニット「玄奏霞」による十三夜の宴コンサートが行われました。お月様をモチーフに、お琴とシンセサイザーによる幻想的な音と光の世界を演出。それも、長濱さんが演奏者の萬玄庵さん、伊藤霞さんと知り合ったのはごく最近のことというから驚きです。

長濱さんは大の JAZZ 好き、人好き、仕事好き、そしてお酒好き。お客が来れば宴会となります。長濱流のおもてなしは、①大きなこね鉢に勝ち割り氷を入れ、②そこの焼酎１升を注ぎ込み、③柄杓でコップにすくってふるまう、というもの。ご近所さんによる手料理も食卓に届けられ、お酒も食事も進むし、会話も弾みます。

営業時間は 10 時から 18 時となっていますが、友人が朝の散歩に必ず立ち寄るというので、7 時前から開けています。近隣の島原城下に残る武家屋敷は、街路の中央に水路があり、散歩するにはもってこいの街並み景観です。

まちの寄り処「森岳」では、屋根裏部屋に泊まることもできますよ。

4. 自転車遠足“まちの駅巡り in 佐野”の報告

９月 29 日、江東自転車エコライフの会主催の「佐野市まちの駅巡り」に参加しました。まず、佐野駅に到着後、赤見屋本店の佐野ラーメンを食べに行きました。麺は青竹手打ちの不揃いちぢれ麺で、スープと麺がよく絡みとても美味しかったです。

昼食後、田中正造ゆかりの「佐野市郷土博物館」を見学。直訴状や聖書・石などの遺品をはじめ、田中正造にまつわる資料がたくさん展示してありました。「田中正造のお墓は、現在５つ存在すること」「幸徳秋水が直訴状を書いた」「直訴状は、直訴する当日に完成した」など、博物館の方からたくさんの話を聞くことができました。

佐野厄除け大師“惣宗寺”は、関東三大厄除け大師の一つ。厄除け・方位除などが有名で、新春には祈願大祭が開催され、毎年多くの厄年の人、厄除け希望の参拝客が訪れます。向いの観光物産会館「観光情報発信基地の駅」で休憩し、佐野のＢ級グルメ「イモフライ」を食べました。

次は、まちなか活性化ビルの中にある「人間国宝田村耕一陶芸館」の見学。田村耕一は、イスタンブール国際陶芸展グランプリ金賞など、国内外で多数の賞を受賞しています。陶芸品の絵付けが細かくて、素晴らしい作品ばかりでした。

吉井酒店（まちなか酒蔵の駅）ではお酒の試飲をしながら、まちの駅の吉井代表からお話を聞きました。「この建物は明治のころからある」「昔はこのお店の近くは鋳物の工場が多かった」など、昔の佐野市のことを知ることができました。

今回、佐野市でまちの駅巡りに参加して、まちの駅の魅力、まちの駅の方と昔の佐野市のことやお勧め場所など、たくさんの地元の話を聞くことができたのは、とても貴重な体験となりました。このように、気軽に地元の方と交流できる「まちの駅」がもっと増えていけば、そこから地域が盛り上がっていくと感じました。

報告者：跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科2年　北村梨夏

5.「おてつたび」宮浜温泉(広島県)で受け入れ

まちの駅運営幹事会で「おてつたび」の永岡里菜社長のお話を聞く機会があり、「お手伝いをしながら旅に出る」という新しい取り組みを知ることとなりました。この取り組みは、例えば長期連休に行ってみたい地域で、泊まりと食事付きで働きながら、空いた時間で観光をしたり地域とのふれあいを楽しんだりするもので、新しいビジネスモデルだと思います。この情報を広島に持ち帰り、宮浜温泉の宮浜グランドホテル（まちの駅名は、まちの駅すぱあと）の檜谷直史社長に伝えたところ、本当にそんな制度があるのかとの疑問を持たれましたが、そこは前向きな社長で繁忙期に受け入れてみようということとなり、８月５日から９日まで受け入れることとなりました。

受け入れたのは、東京で大学に通う平岡優希さんです。平岡さんがこの仕組みを知ったのは SNS で、旅行が好きな事に加えやりたい事が出来そうだと感じ応募されたそうです。お手伝いの内容は、朝からお昼までの６時間で食事会場の準備やお部屋の片づけなどを主に担当しています。仲居のまり子さんは「忙しい時期に手伝ってもらえるのはありがたいし、ハイ!と元気に返事をするところが感じ良い」と評判も上々でした。お手伝い後は、自分の時間となるので、対岸の世界遺産の島「宮島」の観光や宮浜温泉の入浴などを楽しまれたようです。

平岡さん(右から二人目)と檜谷社長(右)

平岡さんに、実際に体験した感想を聞いたところ「仕事のことでも皆さんよくしてくださるし、想像以上に色々な人とふれあうことができました。その中で人生について素晴らしいアドバイスをしてくださる方もいらっしゃいました。また、露天風呂から見る星空は最高でした。」と、普通のバイトとの違いを実感されていました。

受け入れ先の檜谷社長は、「今回が始めての受け入れで、この仕組みに慣れていないことや短期間ということもあり課題もあるのですが、もっといろいろな体験をさせてあげられるよう受け入れ先としても工夫がいるのかな」と今後についての思いも語られていました。

この制度は、体験する人と受け入れる事業所が共に良いといってくれる制度だと再認識しました。全国のまちの駅の中でも活用できる駅の方は利用されてみてはいかがですか。

報告者：まちの駅ネットワークはつかいち　開本浩司

6. 由比まちの駅を訪問

静岡県静岡市由比町のまちの駅は、JR 由比駅前から由比桜えび通り（旧東海道）を中心に 13 駅で運営されています。駿河湾にだけ生息する桜えびは、今から 130 年前に由比の漁師の網にかかったことが漁の始まりとか。由比では桜えびづくしの御膳が大人気です。

ところが、ここ数年は不漁が続き、今年の前半は生息数を戻すために漁を控えることになりました。そのことがマスコミで大きく取り上げられたために、思わぬ風評被害となって、由比に桜えびを食べにくるお客の足がすっかり遠のいてしまい、桜えび街道から来訪者の姿がめっきり減っているとのこと。しっかりした冷凍技術によって生食できる桜えびの在庫は十分にあるので、桜えび尽くし料理はいつでも食べられますよ。

JR 由比駅前には「あおぞら（かさいらずの駅）」があります。駄菓子屋と食堂を兼ね備えた店で、駅前観光案内所も兼ねているまちの駅です。

由比桜えび通り沿いにある「いちうろこ（由比港 13 番地の駅）」は文政元年創業の県内最古の蒲鉾屋さん。由比では、江戸時代から蒲鉾作りが盛んだったそうですが、江戸との距離が近い小田原に先を越されたとのこと。たくさんあった蒲鉾屋も、後継ぎがいないために辞めてしまったそうです。

「原藤商店（桜えび直売ハラトウの駅）」は、ゆいまちの駅の原藤蔵会長のお店で、桜えびとシラスの加工販売をしています。

国道沿いにある割烹旅館「西山」の食堂「開花亭」は味覚の駅というまちの駅になっています。ここでの食事は、お肉料理が出ません。ずっと年中海産物ばかりの献立だそうです。土地柄を感じますね。

7. 関係人口創出・拡大事業

栃木県鹿沼市では、まちの駅を活用した関係人口の創出をテーマに、今年度の総務省「関係人口創出・拡大事業」に応募して採択されました。まちの駅を核として、積極的な関係人口づくりを推進します。その試行の一つが、「まちの駅ネットワークかぬま」と県外のまちの駅ネットワークとの「まちの駅姉妹締結」による関係構築です。

まちの駅間の顔の見える共助の関係をつくることで、相互の地域資源の有効活用とともに関係人口の獲得を目指します。具体的には、姉妹まちの駅を通じて相互の地域情報を PR したり、「関係案内所」として「人をつなぐ機能」を高め、お互いの関係人口の創出を図ります。予定の姉妹締結先は、「まちの駅ネットワーク焼津」「あらかわ区まちの駅ネットワーク」「会津まちの駅ネットワーク」です。まちの駅ネットワークの連携強化のモデルケースとなることを期待しています。

8. 道の駅連絡会の石井会長から田中栄治に感謝状

ご承知のように、「まちの駅」も「道の駅」も故田中栄治（地域交流センター創始者）が実現させたものです。道の駅の数は現在 1160 駅になっています（令和元年６月時点）。

この９月に、一般社団法人道の駅連絡会の石井裕会長（南房総市長）から田中栄治に、素敵な木製の感謝状が贈られました。道の駅制度確立に寄与したとして、文面には「田中さん、道の駅という素晴らしい贈り物、本当にありがとうございました」と刻まれています。本人は平成 31 年２月 24 日に他界しており、直接手渡しできないのは残念ですが、田中の功績が評価されてうれしい限りです。田中を司令塔に平成 4 年に実施された「道の駅社会実験」のことがいろいろと思い出されます。（橋本）

新規まちの駅のご紹介　（平成 31 年 4 月から令和元年 9 月までの加盟駅）

都道府県	市町村	まちの駅名
宮城県	加美町	だんごの駅
福島県	福島市	奥の細道　もちずりの駅
	福島市	まちの駅　福島貸切辰巳屋センター
	福島市	まちの駅　SFC ももりんパーク
栃木県	那須町	ラーメンの駅
	那須町	進学・学びの駅
埼玉県	本庄市	お花いっぱいの駅
新潟県	長岡市	ひとと温泉があたたかい駅
	弥彦村	よってけ亭～
	五泉市	ごせん桜アロマ工房
岐阜県	笠松町	地域に寄り添う介護の駅
	笠松町	聖徳太子「和敬蔵」の駅
長野県	須坂市	花のある駅
岡山県	津山市	津山まちの駅城西
	真庭市	北房まちの駅「AZAE センター」
広島県	竹原市	里山カフェの駅
	竹原市	頭皮と毛髪の駅
	廿日市市	大野郵便局
	廿日市市	みんなのふるさと　川上 BASE
福岡県	粕屋町	肉肉駅
	粕屋町	ハンドメイドの手づくり駅

都道府県	市町村	まちの駅名
佐賀県	小城市	まちのかかりつけ医　江口病院駅
	小城市	練り物の駅
	小城市	ゲストルーム・民泊の駅
	小城市	カフェ桜岡駅
鹿児島県	伊佐市	伊佐　花の駅
	伊佐市	清流の駅　楠本公園
	鹿児島市	ジェイドガーデンパレスの駅

編集後記

最近はシェアハウスやシェアオフィスなど、シェアリングエコノミーが様々なところで取り入れられています。また、日替り店長のキッチンやバー、古本屋なども出て来ました。まちの駅もシェアリングエコノミーと言えます。地元住民や来訪者との「関わりしろ」を増やすためにいろいろな人を巻き込むことが大切ですので、“日替わり駅長”や“日替わりまちの案内人”などを試みると面白いかもしれませんね。（は）

全国まちの駅連絡協議会事務局
（NPO 法人地域交流センター内）
東京都千代田区東神田 1-7-10　KI ビル 3F
TEL03-5823-4190／FAX03-5823-4191